青嵐中学校周辺エリアの方向性

資料1

～ 保谷第一小学校の建替え ～

1　エリア（圏域）における取組の推進

■ 第３次基本構想・基本計画＜令和６年３月策定＞

市の最上位計画である第３次基本構想・基本計画（第３次総合計画）では、令和６年度から令和15年度までの10年間の目指すべき将来像を描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を示している。

その中で、計画を**推進するための基本的な考え方の一つとして「エリア（圏域）における取組の推進（学校を核としたまちづくり）」を整理**した。

■ 行政サービス機能の展開

「学校が地域のキーステーション」であるとの認識のもと、**中学校に身近な相談窓口を設置し、行政サービス機能を展開する。**

中学校では、地域の方々にとって**身近な相談窓口**や、会議・集会・文化芸術活動等の様々な活動が可能な**交流スペース**を設置する。

■ 地域のキーステーションとしての整備

複合化等と合わせて５つの行政サービス機能を展開できる地域のキーステーション（核施設）として整備する。

- 相談機能の強化　⇒　身近な相談窓口
- コーディネート機能の充実　⇒　地域福祉コーディネーター、交流スペース
- 年齢を問わない居場所の確保　⇒　交流スペース、複合施設、学校施設地域利用
- 社会参加の創出　⇒　交流スペース、複合施設、学校施設地域利用
- 健康づくり（運動）の推進　⇒　交流スペース、複合施設、学校施設地域利用

2　学校施設と他の公共施設との複合化

■ 公共施設再編計画＜令和６年３月策定＞

公共施設再編計画では、将来的な厳しい財政状況が見込まれる中でも、適切な市民サービスの提供を図ることとしている。

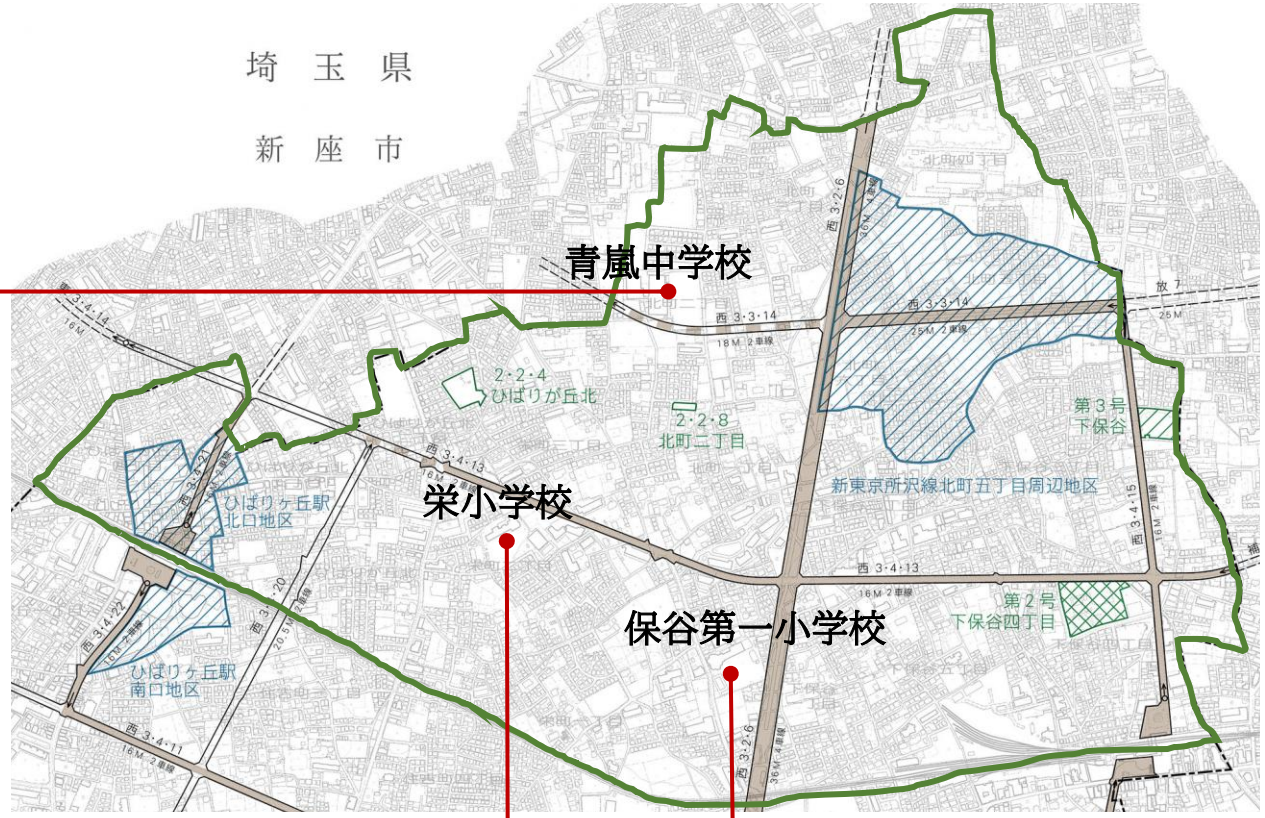
この再編計画において、再編を進める上での具体的な検討として**「学校の有効活用」を掲げ、学校施設が公共施設全体の６割程度の面積を占めていることから、まずは学校施設との複合化等を基本に検討する**こととしている。

■ 複合化等の４つの視点

項　目		内　容
①	学校施設の複合化等の推進	・効果的・効率的な管理運営やライフサイクルコストを縮減しつつ、財政負担の軽減・平準化を図る。 ・地域市民のニーズに応じた学校施設の地域利用を推進する。
②	エリア（圏域）における取組	「学校を核としたまちづくり」を推進し、地域の課題を地域で解決できる仕組みづくりを形成するため、身近な相談窓口の設置やコーディネート機能の充実を図る。
③	防災機能の強化	・災害時における地域の避難所として、防災機能を一層強化していく。 ・ユニバーサルデザイン化を図り、すべての利用者にとって使いやすい機能の拡充を推進する。
④	教育環境の向上	多様な市民が集まるという複合施設としての特徴を活かし、学校教育活動との連携・協力や地域の人材の活用も併せて検討する。

3　青嵐中学校エリアの学校施設の状況

西武鉄道池袋線の「保谷駅」及び「ひばりヶ丘駅」の北口側が青嵐中学校通学区域のエリアとなっている。



■ 青嵐中学校

2007年に建築され、敷地面積は18,365㎡で市立小中学校の中で一番広い敷地を有する。

敷地の南側に都市計画道路西東京3-3-14号線が通じている。

■ 栄小学校

1970年に建築され、敷地面積は10,180㎡で敷地の北側に都市計画道路西東京3-4-13号線が通じている。

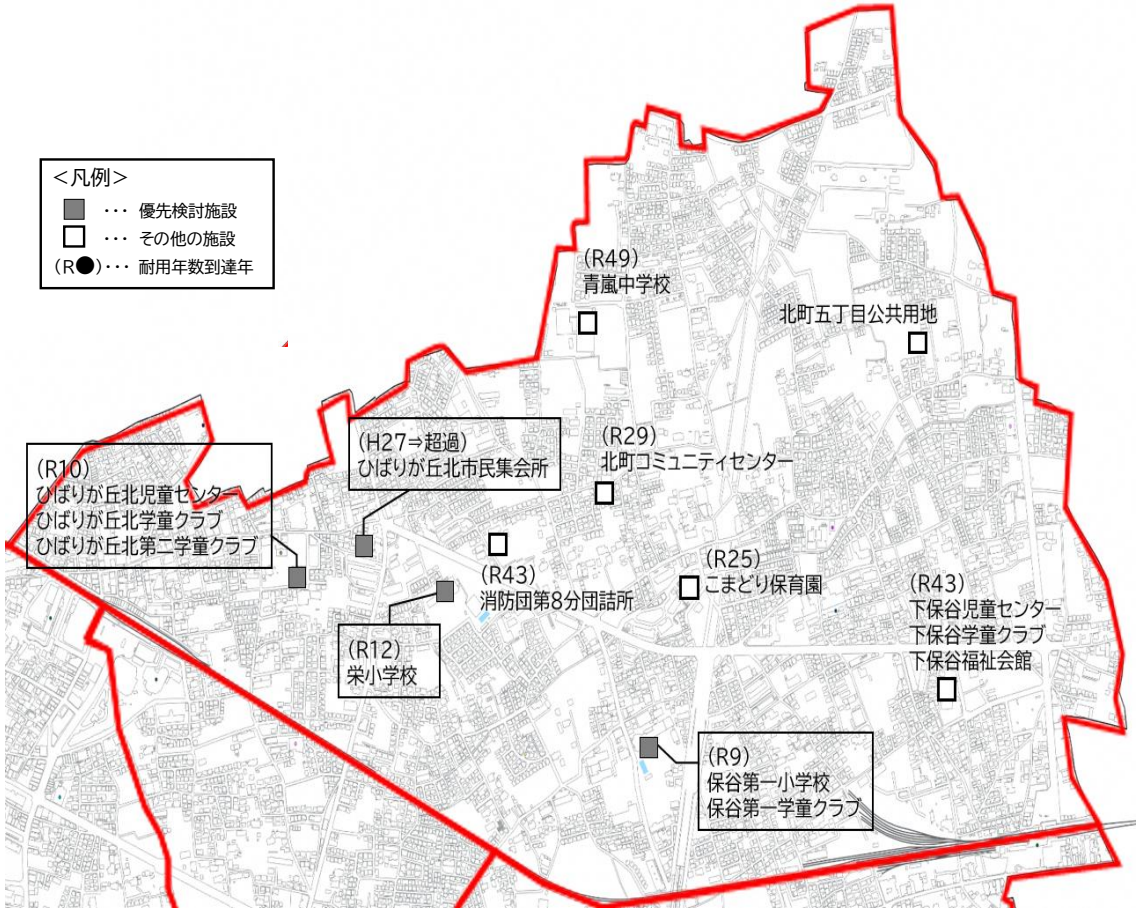
■ 保谷第一小学校

1967年に建築され、敷地面積は11,767㎡で敷地の東側に都市計画道路西東京3-2-6号線が通じている。

「学校を核としたまちづくり」の推進では、中学校施設の更新を契機として、行政サービス機能の展開や複合化等を図ることで児童・生徒の学校教育の場だけでなく、地域市民の交流・集いの場として施設整備を行うが、**青嵐中学校の更新が40年程度先になることから、先行して更新を迎える小学校においても地域利用の拡充等を図り、「学校を核としたまちづくり」を推進する。**

4 青嵐中学校通学区域の現状

青嵐中学校通学区域の公共施設の現状は以下の図のとおりである。保谷第一小学校通学区域の市民交流施設と基幹型保育園が空白地域となっている。



【適正配置の状況】

施設分野等		配置されている施設	適正配置の状況	地域型交流施設の配置
市民交流施設	保谷第一小学校	－	空白	あり
	栄小学校	北町コミュニティセンター、ひばりが丘北市民集会所	重複	
児童館		下保谷児童センター、ひばりが丘北児童センター	重複	
基幹型保育園		－	空白	
福祉会館等		下保谷福祉会館	適正	

【優先検討施設における公共施設再編の方向性】

施設名	残存耐用年数		計画的保全の手法	公共施設再編の方向性（計画期間内）
	建物の方向性	機能の方向性	再編手法	
ひばりが丘北市民集会所	△8年		更新	貸館機能施設は、複合的なサービス提供を目指すこととしているため、学校等の施設更新に併せた複合化を検討する。また、適正配置の考え方を踏まえ、重複施設の解消に向けた集約化等を検討する。
	Ⅱ	Ⅱ	複合化、集約化	
保谷第一小学校	4年		更新	「学校施設個別施設計画」の考え方に基づき、教育環境の向上や地域コミュニティの核となる施設を目指し、周辺施設との複合化等を検討する。
	Ⅰ	Ⅰ	機能縮小（減築）、複合化、集約化	
栄小学校	7年		更新	「学校施設個別施設計画」の考え方に基づき、教育環境の向上や地域コミュニティの核となる施設を目指し、周辺施設との複合化等を検討する。
	Ⅰ	Ⅰ	機能縮小（減築）、複合化、集約化	
ひばりが丘北児童センター	5年		更新	周辺の公共施設の更新状況等を踏まえ、地域における子どもの居場所機能を確保するため複合化等を検討する。
	Ⅰ	Ⅲ	複合化、多機能化	
ひばりが丘北学童クラブ	5年		更新	栄小学校の更新に併せ、栄小学校内への移転を検討する。
	Ⅰ	Ⅱ	複合化、集約化	
ひばりが丘北第二学童クラブ	5年		更新	栄小学校の更新に併せ、栄小学校内への移転を検討する。
	Ⅰ	Ⅱ	複合化、集約化	
保谷第一学童クラブ	4年		更新	保谷第一小学校の更新の際は、保谷第一小学校内の配置を継続する。
	Ⅰ	Ⅲ	複合化	

＜出所：公共施設再編計画＞